PUELLA MAGI MADOKA MAGICA
劇場版
魔法少女まどか☆マギカ
[新編]叛逆の物語
2
作画 ハノカゲ
原作 Magica Quartet
PUELLA MAGI MADOKA MAGICA
THE MOVIE -REBELLION-

2

劇場版 魔法少女まどか☆マギカ［新編］叛逆の物語

作画＝ハノカゲ ／ 原作＝Magica Quartet

PUELLA MAGI MADOKA MAGICA THE MOVIE -REBELLION-
MANGA TIME KR COMICS

CONTENTS

PUELLA MAGI MADOKA MAGICA
THE MOVIE -REBELLION-
VOLUME TWO

第4話

…巴さん
おはよう ございます
ええ おはよう
良かった 暁美さんで
?
髪 解いたのね
雰囲気が 変わっていたから びっくり しちゃった
…変で しょうか?
ううん とっても 魅力的よ 見違えたわ

……

誰かが私たちの記憶を欺き

陥れようとしている……

あの…

巴さん

なぁに？

今日の放課後お時間はありますか？

とっても美味しいです
ほっぺたが落ちちゃいそう〜
ふふ よかった
この子ったらゆうべもつまみ食いばっかりしてたのよ
チーズウマイ
ガツ
ガツ
あはは でも気持ちはわかるかも
あんまりお行儀が悪いとチーズになっちゃうわよ?
チーズ!?
クル
クル
チーズニナッチャウ!
グルルルル
チーズニナッチャウ!!
ガ
マウ
チャ
あははは

ええ
そうよ

べべは
ずっと昔からの
友達だもの

本当に
仲いいですよね
マミさんとべべ
出会ったのは
もう随分前…
鹿目さんや
美樹さんよりも
付き合いは
長いのよ
そう
でしたか…
そういえば
初めてマミさんと
会ったときも
べべと一緒
でしたよね
ホムラ
ナゼ
ジ…
キク…?

フム…
ちょっとだけ気になって…
…以前はね
この見滝原には私一人しか魔法少女がいなかったの
今でこそみんながいてくれるけど
あの頃の私を支えてくれて励ましてくれたのは
べべだけだった
——この子がいなかったら

私はとっくに駄目になってたと思うわ
そんなマミさん…
…巴さんはもっと強くて逞しい人です
ありがとたしかにそうやって頼りがいのある先輩ぶってた頃もあったわね
鹿目さんや美樹さんが一人前になって
佐倉さんや暁美さんも味方についてくれて…
でもね

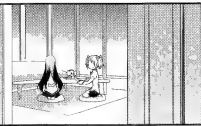
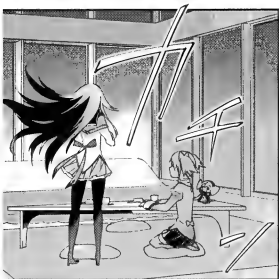
今はこんなに
頼れる仲間に
囲まれてるん
ですもの

ナイトメアも強くなってきたけど
そのぶん魔法少女も増えて前より安心して戦えるようになりましたよね
こういうのなんだか賑やかで楽しいかも
もう
ナイトメア退治は遊びじゃないのよ鹿目さん
えへへ…
でもそうね
今にして思えば
これって昔の私が夢に見ていた毎日なのかもね

魔法少女として受け入れた生き方が
こんなにも幸せで充実したものになるなんて
あの頃は思ってもみなかったわ
ギュッ…
…巴さん
お茶のお代わりいただけますか？

あら
ちょっと待っててね
いまお湯を沸かしてくるから
ほむらちゃんどうかしたの？
ごめんなさい

カシャ
キィィ
まどか

ハッ!?
!?
?
??

茶番はこのくらいで終わらせましょう

思い出したの
ホヘェ?
あなたがかつて何者だったのか

私は
あなたの正体を憶えてる…

みんなの
記憶を捏造し
偽りの
見滝原の結界に
閉じ込める…
こんな芸当が
できるのは
魔女である
あなたしか
いない

どういう
つもり？
こんな風に
私たちを弄んで
いったい何が
楽しいの？

ビクッ
カクン…
フゥ…
トン
ピピ…
…記憶って厄介なものね
ピッ
ひとつ取り戻すと次から次へと
余計な思い出がついてくる
ゴォォォォ

…巴マミ
私はあの人が苦手だった
あの人の前で真実を暴くのは
いつだって残酷すぎて
辛かった
強がって無理しすぎて
そのくせ誰よりも繊細な心の持ち主で…

忘れたままでいたかったわ…

今まで自分がいったいどれだけの人の心を踏みにじってきたかなんて…

ウ…根マレル

コマル…

白状なさい！

グッ
チーズニナッチャウ…
ザッ
ク
っ!?

事情が分かるまで
話を聞いていたかったけれど…

これ以上べべが
虐められるのを
黙って見てるわけにも
いかないわ

どういうことか
説明してくれる？
その子が何を
したっていうの？

まさか

最初から…

…ちょっと
暁美さん
一体
どうしちゃったの？
…………ッ
カ
チ
ー
ン
ギュ

ドン
キュルルルル…
……
べべ
行って!
ボム
くッ

どうあってもそいつを守るつもり？
…追いかけようだなんて思わないで
——さもないと
私と戦う羽目になるわよ
………

ガ
ガ
ガ
ガ
ド
ド
ド
ド
ド

カ
シャン

ギュ
ゴォ

お互いに
動きの読み合いね
でも
同じ条件で
私に勝てる？
…根比べなら
負けない

…はぁ
はぁ

はぁ
はぁ…
はぁ
はぁ
ガシャン

……ほら
………
ス…
埒があかないわよ！

!
まだやるの？
晓美さん…？

!!…っ
駄目……

……
はあ

はぁ
はぁ
はぁ…
ス…

ドッ…
ガシャ…

!?

ザ
ガチ
コッ
ン
…………!!
あなたの魔法は確かに凄いけど

いつだって

相手より優位な立場にいると思いこむのは禁物よ

でもどうしてベベを襲ったりしたの？
あいつは魔女よ！私たち魔法少女の敵なのよ！
思い出して！
…魔女なんて知らないわ
私たちの敵は魔獣でしょ

私はずっと

魔獣たちと戦ってきた…

——じゃあ

ナイトメアって
一体……

く…

それは私の口から
説明するのです

…あなたは…
今まで
黙っていて
ごめんなさい
ポ
コ
でも
落ち着いて話を
聞いて欲しいのです…

第5話

カチ

パ

シャ

パラ

あなた
一体…？

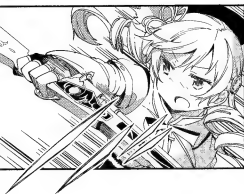
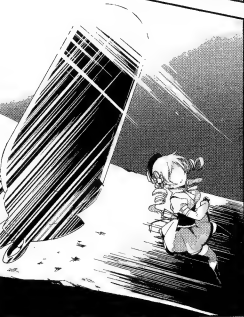
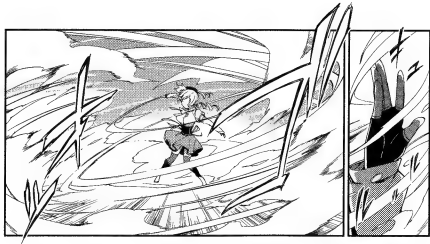
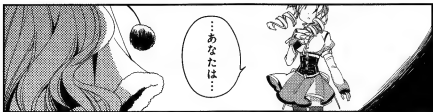
っ
たく

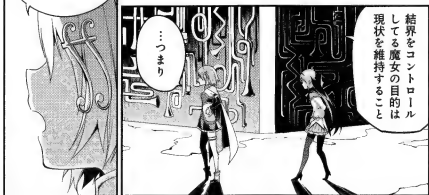
絶好調のマミさん相手に

真っ向から喧嘩売るなんてさ

ヒョイ

あんたも自信過剰なんだか

ポ
ン
バカなんだか
……
…巴マミとの衝突は
仕方なかった
私が狙ったのは彼女じゃなくて…
べべ
でしょ？
あの子がむかし魔女だったってだけで標的にするなんて
先走るにも程があるよ
………
あなた…

憶えてるの？
それがあたしの役目だからね
大体さぁ変だと思わなかったの？
見滝原市丸ごと再現するほどでかい結界を張った魔女が
他の人間を襲って殺したりもせず
ただあたしたちを閉じ込めただけで
後は何もしてないいなんて

…あんたが
憶えてる
べべは
そんな奇妙な
ことやる奴じゃ
なかったでしょ
……
ちょっと考えれば
分かったはずだよ
この魔女の結界は
餌集めのための
罠じゃない
今起こってる
出来事が
誰にとって
好都合なのか
結界をコントロール
してる魔女の目的は
現状を維持すること
…つまり

そこから推理
していけば――
カシャ
また自分だけの
時間に逃げ込む
つもり？
あんたの
悪い癖よね
その魔法に
頼りすぎる
ところ

…この状況を
望んだ誰かが
私たちの中に
いる…と？
不思議がるほどの
話じゃないでしょ？
現にマミさんだって
さっきそう言ってた
じゃない
〝今が一番幸せ〟だ
って
…どう？
マミさんが
魔女だと思う？
…魔女は

魔法少女が
行き着く果ての姿
その可能性は
あり得るわ
フン
あんたらしい
答えよね
ガ
ギ
それならそれで
もうひとつ
訊かせて
この結界を作った
魔女を突き止めて
それであんたは
どうするつもり？
…そんなのは
当然……
始末するの？
ただ魔女だから
って理由で？
…何が
言いたいの？

ねぇ
誰とも争わず
皆で力を合わせて
生きていく…
それを
祈った心は
裁かれなきゃ
いけないほど
罪深いものなの？
これって
そんなに悪い
ことなの？
…あなた
魔女の肩を
持つつもり？
あたしたちが
行き着く果ての
姿だもの

同情だって
したくなるわよ
…私もついさっき
一番肝心なことを
思い出したわ

私はずっと
巴さんが
思い出した記憶は
魔女ではなく
魔獣との戦い…
佐倉杏子が
魔女の結界という
可能性を推理
しなかったのも
こいつは…
幻覚か何かか？
魔女のことを
忘れてた
からじゃない

二人は
魔女なんて存在は
知らないんだわ

当然よ

もう この宇宙には 魔女なんて 存在しない

すべての 魔法少女の魂は 魔女になる前に

〝円環の理〟に 回収される

そうなるように あの子が世界を 作り変えた

そして最後は

魔女のことを知っているあなた

…あなたは何者?

本当に
美樹さやか
なの？
ビュ
オォ
あたしはあんたが
知ってる通りの
あたしだよ
オォォ
ご挨拶だね
ズ
ズ
ズ
ズ

転校生？

キュルル…
カシャッ
ドサ
ドサ

逃げ足が
早すぎるわね
もっと不器用
だったはずよ
あなた
…あんた
だって
あたしの質問に
答えてないよ

この見滝原を
壊して本当に
構わないのか…

じっくりと
考えてから
決めるんだね

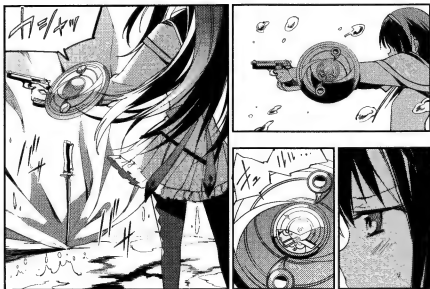
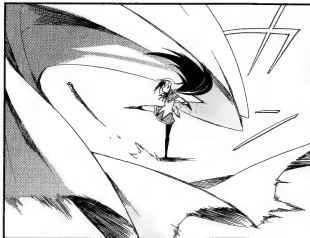
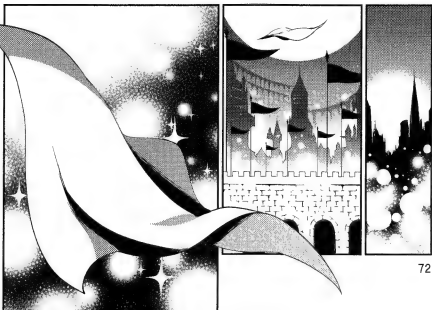
悔いを
残さないように

ここは
偽物の街

マミの縄張りを
手伝ってんじゃ
ねーか

昔の私が
夢に見た毎日
なのかもね

ねぇ
これってそんなに
悪いことなの？

皆を巻き添えにしてこんな有り得ない世界に逃げ込んだ者がいる
魔獣と戦う使命に背を向けて…
そんな弱さ許されていいわけがない
魔法少女は戦い続けなければならない
それが奇跡を願った対価…

そんな
私たち
だからこそ
あの子は
身を挺して
救おうと
してくれた…

こんな茶番劇
まどかの犠牲を
無駄にしている
だけよ

許せない…

あっ
ほむら
ちゃん!

わっ!?
良かった…
探してたんだよ
ストトーン!
マミさんがすごく心配してたよ
一体何があったの?
…私は……

ほむらちゃん

………

わたしなんかでも
話を聞くことぐらいなら…
何にも役に
立てないかも
しれないけれど

ひとりぼっちに
なったら駄目だよ

それでも一人で
悩んでるよりは
ずっといいと
思うの

ほむらちゃんが
苦しんでるときに
何も出来ないなんて
わたしだって
辛いよ
…私ね
とても怖い
夢を見たの
夢？

…まどか
あなたが
もう二度と
会えないほど
遠い所に
行っちゃって…
なのに世界中の
誰もかもが
そのことを
忘れちゃって
私だけがまどかの
ことを憶えてる
たった一人の
人間として
取り残されて…

……
……
寂しいのに…
悲しいのに
その気持ちを
誰にも解って
もらえない
そのうちに
まどかの思い出は
私が勝手に作り出した
絵空事だったん
じゃないかって
…自分自身さえ
信じられなく
なって…

うん
……
……っ
ひっく…
……う…
それはとっても嫌な夢だね

でも大丈夫だよ

わたしだけが誰にも会えなくなるほど遠くに一人で行っちゃうなんて
そんなことありっこないよ
だってわたしだよ？

どうして？
何故そう言い切れるの？
ほむらちゃんでさえ泣いちゃうような辛いこと
わたしが我慢できるわけないじゃない

…あなたに
とっても
それは…
我慢できないほど
辛いこと？
そうだよ
ほむらちゃん
さやかちゃん
パパやママや
タツヤ
マミさんに
杏子ちゃん
それに
仁美ちゃんや
クラスの
みんな…

誰とだって
お別れなんて
したくない

もし他に
どうしようもない時だったとしても
そう…
そうだったのね

…やっぱり 認めちゃいけなかったんだ
あの時
どんな手を使ってでも
あなたを
止めなくちゃいけなかった…

まどか…
あなたにはね
それを
選択できてしまう
勇気があるの
あなたが
あなたにしか
出来ないことが
あると知ったとき
あなたは自分でも
気付いていないほど
優しすぎて
強すぎる
私ね
知ってるんだよ…

…ほむらちゃん？
そうか
やっぱりまどかも何も憶えてないんだね…
もしかしたら

あなたは幻かもしれないって…
誰かが用意した偽物かもしれないって思ってた
…でなければこうしてまた逢えるなんて
どう考えてもおかしいもの
…え？
でも解る
あなたは本当のまどかだわ

…もう行くわ
まだやり残したことがあるから
ほむらちゃん…？
まどか

それだけで十分に

私は幸せだった

…どうしちゃったんだろう？
ほむらちゃん
きゅー

見滝原
三丁目
Mitakihara
3 chome

…ねぇ
佐倉さん

…そいつも
何か?

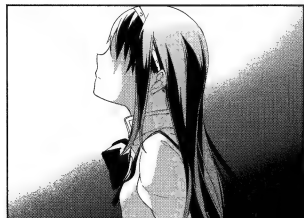
本当なら憶えて
なきゃおかしい
事柄なのか?

いいえ
知らなくて
正解よ

………

…おいこら
からかってるん
じゃねぇぞ

じゃあ
鹿目まどかは？

はぁ？
当ったり前だろ
何を……
って
彼女のこと
憶えてる？
おい？
まさか…
ええ

あなたが
彼女のことを
知ってるはずが
ない
その記憶は
偽物よ
…悪い冗談
としか思えねぇ
本当に…？
こんな
簡単なこと
すこし考えれば
わかったはず
なのに
まどかがいる世界を
捏造できるとしたら
それはまどかの
ことを知っている
者だけ
これで解ったわ
私たち全員の
記憶を書き換え

今どこにいるんだ？

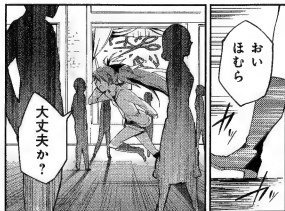
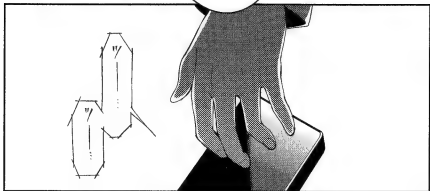
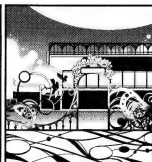
…最後にひとつだけ確認したいことがあるの

あなたの手は煩わせない

それで全てに決着をつけるわ

おいッ

巻き込んでしまって
ごめんなさい

第6話

邪魔しないで
そもそもまどかは
関係ないんだから

さやかちゃん
ごめん！

よりにもよって
友達を放り
投げるなんて
どうかしてるよ

どういうことだ
おい…

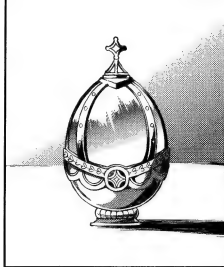
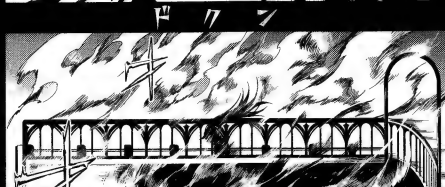
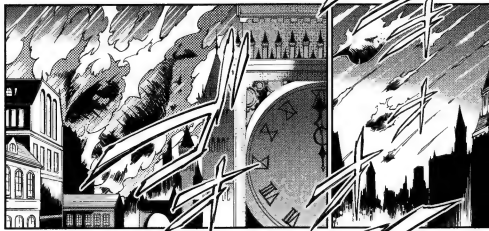
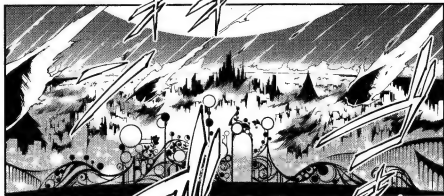
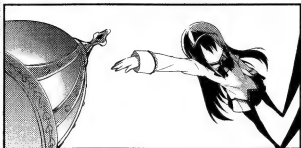
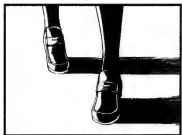
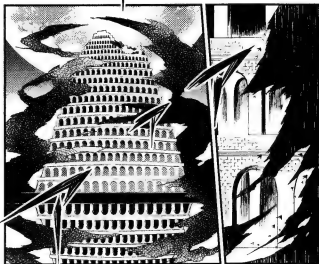
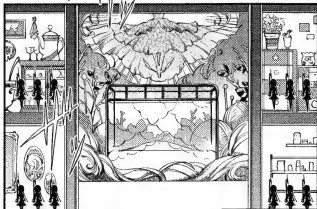
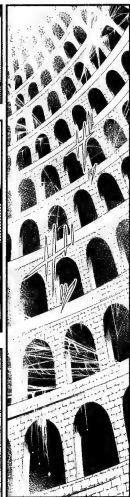
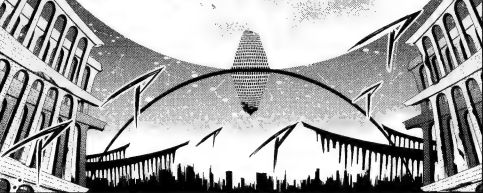
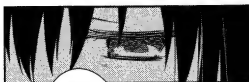
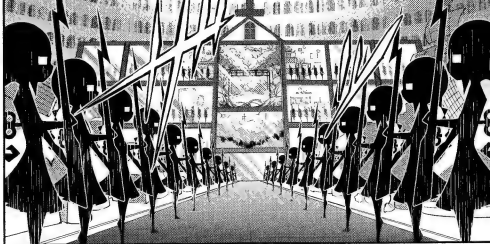
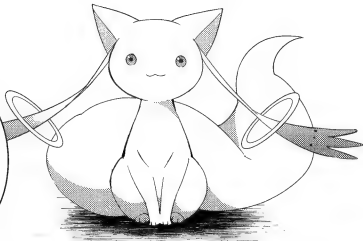
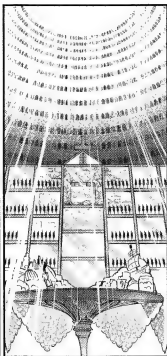
ソウルジェムを
手放しても
私の身体が動くと
したら
せいぜい100メートルが
限度のはず…

ゴ
オ
オ
オ
オ
オ
オ

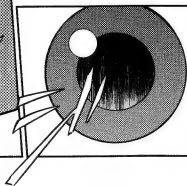
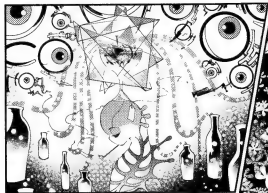
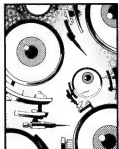
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン

つまりは…もう

パラ
パラ

……どうしてよ
ねぇ………
私が
どうして
こんな…

一体 いつの間に
私は
なっ
て
魔女に
た
の
!?

…真実なんて
知りたくもない
はずなのに
トン
トン
それでも
追い求めずには
いられないなんて
つくづく人間の
好奇心というのは
理不尽だねぇ

インキュベーター…
やっぱり何もかも
あなたの仕業
だったのね…

残る疑問は
暁美ほむら
これが
この偽物の
見滝原市の外側
君の命と魂が
いま何処に
あるのか
だよね？
その答えは
僕が教えてあげる

現実世界の
光景だよ

!
…そん…な……

僕たちの作り出した
干渉遮断フィールドが
君のソウルジェムを
包んでる

既に限界まで
濁りきっていた
ソウルジェムを

外からの影響力が
一切及ばない環境に
閉じ込めたとき
何が起こるのか

それが
今回の僕らの
実験だったのさ

実験…？

独自の法則に支配された閉鎖空間の形成と
外部の犠牲者の誘導捕獲
これぞまさしくいつか君が説明してくれた
『魔女』とやらの能力そのものだよね

もっとも遮断フィールドに保護されたソウルジェムがまだ砕けていない以上
君は完全な形で魔女に変化できたわけでもない
卵を割ることができなかった雛が殻の中で成長してしまったようなものだね
だから君は自らの内側に結界を作り出すことになった

ここはね君のソウルジェムの中にある世界なんだよ

…その
理屈は変よ
外部と遮断
されてるなら
この結界に誰かが
迷い込むことだって
なかったはずでしょ
そこは僕たちが
調整してるのさ
フィールドの遮断力は
あくまで一方通行だ
外からの干渉は
弾くけれど
内側からの誘導で
犠牲者を連れ込む
ことはできる
魔女としての君が
無意識のうちに
求めた標的だけが
この世界に
入り込めるんだ

ここまで条件を限定した上でなおも『円環の理』なる存在が
あくまで暁美ほむらに接触しようとするならば
そのときは君の結界に招き入れられた犠牲者
…という形でこの世界に具現化するしかない
そうなれば僕たちインキュベーターは
これまで謎だった魔法少女消滅の原因をようやく特定し
観測することができる

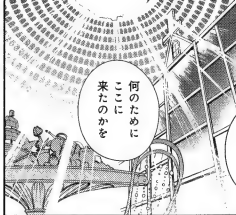
実際
君が作った
結界には
現実世界には
既に存在しない
キャラクターが
奇妙な形で
参加している
とりわけ
興味深いのは
過去の
記憶にも
未来の可能性にも
存在しない
一人の少女だ

君は以前から『円環の理』のことを

鹿目まどかという名前で呼んでいたからね

じゃあ あの子はやっぱり…

唯一厄介だったのは
鹿目まどかが未知の力を発揮する素振りをまったく見せなかったことだ
結界の主である君の記憶操作は
まどかに対しても作用してしまったみたいだね
鹿目まどかは神であることを忘れ
彼女は君を救済するという目的だけでなく
自分自身の力と正体さえ見失っていたようだ
これでは手の出しようがない

暁美ほむらは
魔女であることを忘れ
おかげで僕らは
こんな無意味な
堂々巡りに
付き合わされる
ことになった
まぁ気長に待つ
つもりでいた
けれど…
君が真相に
辿り着いたことで
ようやく均衡も
崩れるだろう
さあ
暁美ほむら
まどかに助けを
求めるといい

それで彼女も
思い出す
自分が
何者なのか
何のために
ここに
来たのかを
あなたたちの
狙いは何？
もちろん
今まで仮説に
過ぎなかった
円環の理を
この目で
見届ける
ことだよ
何のために？
好奇心なんて
理不尽だって
言ってたくせに

まどかの存在を
ただ確認するため
だけに
こんな大袈裟な
段取りまで用意する
わけがない
まどかを
支配する
つもりね？

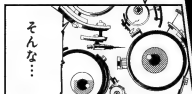
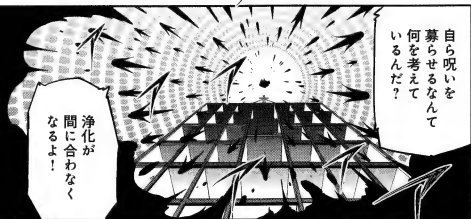
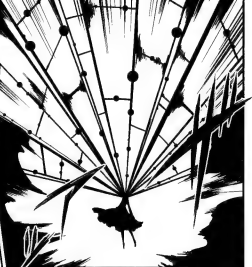
最終的な
目標については
否定しないよ
まあ道のりは
困難だろう
この現象は
僕たちにとって
まったくの
謎だった
それで諦める
あなたたちじゃ
ないわ
存在すら確認
できないものには
手の出しようが
ないからね
…そうだね

観測さえ
できれば
干渉できる
そうなれば
魔法少女は
魔女となり
干渉できるなら
制御もできる
さらなる
エネルギーの
回収が期待できる
ようになる
希望と絶望の
相転移
その感情から
変換される
エネルギーの
総量は
予想以上の
ものだったよ
やっぱり
魔法少女は
無限の可能性を
秘めている
君たちは魔女へと
変化することで
その存在を
全うするべきだ

…なぜ怒るんだい？
暁美ほむらの存在は完結した
君にはもう何の関わりもない話だ
君は過酷だった運命の果てに
待ち望んでいた存在と再会の約束を果たす

これは幸福なことなんだろう？

いいえ

グ
グ
そんな幸福は
グ
求めてない

そんな…

自ら呪いを募らせるなんて何を考えているんだ？

浄化が間に合わなくなるよ！

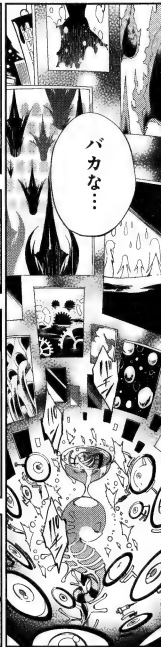
だから今度も
同じ事
まどかの秘密が
暴かれる
ぐらいなら
私はこのまま
魔女になってやる
もう二度と

大丈夫

きっとこの結界が
私の死に場所に
なるでしょう

ここには巴マミも
佐倉杏子もいる

彼女たちを
信じるわ

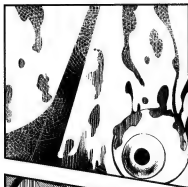
バカな…
この遮断フィールドの内側で死ぬことが何を意味するのか解っているのかい？
殻を破ることすら拒んで卵の中で魔女として完成してしまったら…
君は円環の理に感知されることすらなく破滅する
もう誰も君の魂を絶望から救えない

君は再び
鹿目まどかと
巡り会うチャンスを
永久に失うんだよ？
マド…カ
まどか
まどか
まどか…

行かないで…
まどかあああああ
黙りなさい

君にとっても最悪の結末だろうに…
ゴ
ゴ
ゴ

まったくどうして人間の思考は
こうも理不尽なんだい？
グシャ

後悔と
輝きだけしか
もう思い出せない

これが本当の
絶望…

まどか…
こんな所まで迎えに来てくれて
ありがとう…
最後にお別れを言えなくて
ごめんね………

To be continued...

本書はすべて原作に基づいた
描き下ろし作品として刊行しております。

劇場版 見滝原サスペンス劇場

暁美さん…どうして窓を開けたりなんてしているの…?

時間まで止めて

マミルーム

夜風に…あたりたかったの

エアコンじゃ…ダメなの…?

ええ

さよなら

ヒュッ

ああっ暁美さん!!?

プラーン
ふっ…よかったわ
間に合って
でもどうして
こんなこと…
あら？
プラ
リン
カァァ
…い…
イヤァァァ〜ッ
はずかしすぎて
死んでやるわァ〜
ワァァ〜ッ
ま…まってちがうの
暁美さぁ〜〜ん!!!
…って。
マミさんがすごく心配してたよ
悩みがあるなら聞くよ!?
まどか…あなたは
巴マミにだまされてる…
何それ
さやか…あたしの記憶
おかしいみたいだ…
昨日買っておいたはずのプリンが
冷蔵庫になくてさ……
ってわけで外出ついでに
プリン買ってきて
うん… あたしあんたがゆうべで
隠れてプリン食べてたの
知ってるから…切るよ〜ー
そのころのさやか

あなたは幻かもしれないって…
誰かが用意した偽物かもしれないって思ってた
…でなければこうしてまた逢えるなんてどう考えてもおかしいもの
…え？
でも解る
あなたは本当のまどかだわ
…もう行くわ
まだやり残したことがあるから
ほむらちゃん…？
まどか

唯一厄介だったのは
鹿目まどかが未知の力を発揮する素振りをまったく見せなかったことだ
結界の主である君の記憶操作は
まどかに対しても作用してしまったみたいだね
彼女は君を救済するという目的だけでなく
自分自身の力と正体さえ見失っていたようだ
これでは手の出しようがない
鹿目まどかは神であることを忘れ
暁美ほむらは魔女であることを忘れ
おかげで僕らはこんな無意味な堂々巡りに付き合わされることになった
まぁ気長に待つつもりでいたけれど…
君が真相に辿り着いたことでようやく均衡も崩れるだろう
ゴポ
ポ
さあ暁美ほむら
まどかに助けを求めるといい